

令和4年6月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

赤木 幸仁 議員

教育行政について

(1) 新型コロナウイルス対策により2年間で失われた教育機会

修学旅行の実施状況について

- ・ 子供たちにとって修学旅行は、とても有意義な教育活動であるが、令和2年度、令和3年度のコロナ禍における実施状況についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

令和2年度に修学旅行を実施した学校の割合は、小中学校84パーセント、県立高校33パーセントであり、令和3年度は小中学校96パーセント、県立高校70パーセントであります。

新型コロナウイルスの感染状況により、実施の判断が難しい状況でありましたが、それぞれの学校において、県外から県内への方面変更や感染症対策の徹底などの工夫を講じたことにより、令和2年度よりも令和3年度の実施校が増加したものと受け止めています。

なお、県内修学旅行を実施した学校からは、児童生徒や教職員が改めてふるさとの魅力を発見する貴重な機会になったと伺っています。

実施できなかった学校の対応

- ・ コロナ禍であっても、感染症対策を講じながら、修学旅行を実施していると聞いているが、やむを得ず延期や中止となった学校は、どのような対応をしたのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

修学旅行をやむなく延期や中止をしたほとんどの学校においては、学校や地域の感染状況等に応じて、校外学習や日帰りのバスハイク、校内でのレクリエーションなど、修学旅行に代わる行事を設定し、児童生徒の成長や仲間との思い出作りに繋がる教育活動を実施したと承知しております。

今後の修学旅行の実施について県はどのように考えているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

学校において児童生徒は、教科の学習だけではなく、様々な行事を通じて、学校生活への意欲を高め、学級や学年の集団の繋がりを深めながら大きく成長していきます。

特に、修学旅行は、子供たちが最も楽しみにしている学校行事の一つであり、学校を離れ、日常と異なる環境で見聞を広め、自分や仲間の新しい姿を発見し、その後の学校生活を充実させる意義深い教育活動であると思っております。

新型コロナウイルス感染症の影響がまだ懸念される状況ではありますが、今後も、各学校において感染対策を十分に講じながら、できる限り修学旅行を実施することが望ましいと考えております。

(2) ICT支援状況について

小中学校や県立高校で端末が導入され、現場負担が偏っているとの声もある。現在の学校や教員への支援状況についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

1人1台端末の導入期において、教員に生じる一定の不安や負担の軽減を図る必要があると考えております。そのため、県立高校や小中学校においては、民間事業者に委託した相談窓口の設置やICT支援員の配置等による技術面での様々なサポートを行っております。

また、県教育委員会では、授業における端末の効果的な活用や、業務の効率化を図る活用などの、県内の優れた事例を集めたWebサイトを運用し、教員の取組を支援しております。

今後も、現場の教員の声をしっかり聞きながら教員支援の充実に努め、ICTを有効に活用することで教員が児童生徒に向き合う時間を確保し、より質の高い学びの実現を図ってまいります。

県立高校では昨年端末を導入したが、どれくらい端末が故障・破損し、費用がかかったのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

昨年度、県立高校に1人1台端末約2万5千台のパソコンを導入しましたが、そのうち、故障・破損した状況は、授業中の机からの落下、あるいは移動中の衝撃により

画面が割れるなど合計207台で、修理に要した経費は約600万円となっております。

端末の取り扱いについては、これまでも、校長会等を通じて注意喚起を行ってきましたが、改めて、机にストッパーを取り付けるなど落下防止策を徹底させるとともに、最善の注意を払って取り扱うよう指導してまいります。